

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：25301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380748

研究課題名(和文) 高齢期のストレス対処力SOCの特徴と機能に関する研究

研究課題名(英文) Investigation of trait and functioning in SOC on stage of old-age

研究代表者

坂野 純子 (Sakano, Junko)

岡山県立大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：70321677

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、地域在住の高齢者のための政策・事業の効果測定に役立つ構成概念として、Sense of Coherence (SOC) の利用可能性を検討することが目的であった。結果として、SOC尺度の短縮版(6項目5件法)を開発し、その妥当性と信頼性を確認した。また当該構成概念の生理心理学的基盤(ストレス緩衝効果)もあわせて明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to examine the application potential of Sense of Coherence (SOC) as a construct to be useful for the effect evaluations of policy and project for the community-dwelling elderly. As a result, a short version of SOC scale (6-item five point scale) was developed and its validity and reliability of that scale were verified. In addition, this study clarified the stress-buffering effect of SOC on psycho-physiological reactivity of the construct.

研究分野：保健福祉学

キーワード：SOC 高齢者 政策・事業 効果測定 ストレス反応 遂行機能

1. 研究開始当初の背景

近年、要支援サービスを介護保険の対象から外し、市町村が独自に高齢者の日常生活支援などを行う介護予防・日常生活支援総合事業(以下、総合事業)が始まり、個々の地域のニーズにあった柔軟なサービスの提供、ボランティアやNPOの活用などを推進していくこととなった。しかし、市町村間でサービスに格差が生じる恐れもあり、特に介護予防に関する一般高齢者施策に関しては、元気高齢者が特定高齢者にならないように予防することを狙いとする、科学的根拠に基づいた介入プログラムの開発と効果測定の重要性が、今後ますます増大することが想定される。とりわけ、世界保健機関(WHO)のヘルスプロモーション憲章で指摘されているように、健康増進のためには身体および精神(認知機能)、社会的な健康状態の次元に加えて、「生き生きしている」、「活力のある」といった実存レベルの状態に働きかけることが重要であり、これからの元気高齢者の介護予防・健康増進を目的とする活動プログラムには、まさに高齢者の「実存レベル(生き生きしている状態)」をきちんと評価し、健康状態およびQOLを促進することが求められる。

Antonovsky A (1979; 1987)によると、Sense of Coherence (以下、SOC)とは、後天的に形成される自分自身の生活(世界)に対して首尾一貫している、筋道が通っている、腑に落ちるといった捉え方・向きあひの感覚であり、そのような感覚を有しているという確信・認知的傾向である。当該構成概念は、首尾一貫感覚やストレス対処力と邦訳されており、ソーシャルワーク領域におけるクライアントの本来有する能力や強さ(望み・可能性・活力・知恵)に焦点を当てるストレングスモデル(Saleebey D, 2009)や、精神障害を呈する人たちがそれぞれの自己実現や自分が求める生き方を主体的に追求するプロセスを示すリカバリー(Deegan PE, 1988)そして、教育現場で重要視されている生きる力とも重なり(山崎, 2008)まさに、現代社会における人間の生活上の実存レベルの程度を評価している概念に他ならない。Antonovsky (1987)によりSOC尺度が提案されて以来、これまでに発表された多数の追跡・縦断研究の蓄積により、SOC尺度がストレス対処・健康保持力を構成する心理社会的特性を測定可能なことは検証済みである(Eriksson M, 2005; 2006, 高坂, 2010)。しかし、高齢者を対象とした地域活動の現場において、実際に介入していく際の効果指標やアウトカムとしてのSOCの検証は不十分である。それに介入の効果指標としてSOCを導入する際には、認知的志向性であるSOCが、どのようにストレス対処や健康増進に結びつくのかといった行動レベルの検討もさることながら、その生理学的メカニズムの解明が必要不可欠である。

2. 研究の目的

種々の政策・事業の効果測定に役立つ構成概念として、Sense of Coherence (以下、SOC)の利用可能性を検討することを、本研究の目的とした。目的達成のために、まずは調査研究として、高齢者に適用可能で妥当性と信頼性のあるSOC尺度(短縮版)の開発を行ない、また、SOCが実際の生理心理学的なストレス反応に対して緩衝効果があるか否かも実験により検討した。

3. 研究の方法

本研究は、調査と実験による以下の検討を行った。

【調査研究】

SOCのオリジナル尺度は、29項目7件法であるが、総合事業等の政策・事業に適用するには質問項目が多く、また抽象的な表現があるため、回答者となる高齢者の負担が大きかった。すでに13項目7件法および5件法は実用化されていたが、本研究ではさらに、6項目5件法の尺度を開発し、その信頼性と妥当性を明らかにした。

60歳以上の地域高齢者(平均年齢75.6歳、60-90歳)を対象に自記式質問紙調査を実施し、SOC尺度13項目版リッカート5件法、精神的健康(WHO-QOL5)、健康関連QOL(SF-8)に回答させた。開発に際して、確認的因子分析、項目分析(項目反応理論)、相関分析、重回帰分析を行った。項目分析では多値データを0および1の2値に置き換えた上で、2パラメータ・ロジスティックモデルに基づいて項目母数(困難度・識別力)、項目情報曲線を推定した。また、併存妥当性として、SOC13項目の合計得点間の相関関係を検討し、さらに、構成概念妥当性として、SOC短縮版スコアと精神的健康および健康関連QOLとの関連性を重回帰分析により検討した。

【実験研究】

被験者34名(男性13名、女性21名、平均年齢20.2±1.4歳)に対し、質問紙によりSOC29項目に回答してもらった。

その後、生理的ストレス反応の測定のために、Kirschbaum et al (1993)のTrier Social Stress Test (TSST: 自己紹介および理想とする職業を課すスピーチ課題と暗算課題を課す標準的ストレス課題)を被験者に課した。その際、生理指標として心拍率(HR)、心拍変動(LF/HF)、精神性発汗(SCL)を、心理指標として日本語版Positive and Negative Affect Schedule (PANAS)を用いて気分を測定した。あわせて、ストレス反応は近年、認知機能の中でも遂行機能の制御を受けていることが示されていることから、Miyake & Friedman (2012)による遂行機能分類に従い、更新、転換、抑制の各々の機能に準じた種々の認知機能検査・課題も複数実施し、SOCおよび生理心理学的なストレス反応との関連も検討した。

4. 研究成果

調査研究において、種々の解析の結果、抽出された精度および識別性の高い6項目5件法による高齢者を対象としたSOC尺度短縮版の信頼性と妥当性は確認された(学会発表参照)。

一方、実験研究においては、SOCが実際のストレス暴露時の生理学的反応(主にSCL)および心理学的反応(ネガティブ感情)に対して緩衝効果(ストレス反応を抑制する効果)があることが示唆され、さらに、SOCは、遂行機能の中でも、転換および抑制機能との関連があることが確認された。

以上から、SOCは高齢者を対象とした諸政策・事業の効果測定に耐えうる効果指標としての利用可能性は十分であり、当該尺度を実際の政策・事業に組み込むための準備を整えることができた。

<引用文献>

Antonovsky, A. Health, Stress and Coping. San Francisco: Jossey-Bass. 1979.

Antonovsky, A. Unraveling The Mystery of Health - How People Manage Stress and Stay Well, San Francisco: Jossey-Bass Publishers, 1987.

Saleebey D. Strengths Perspective in Social Work Practice, Allyn & Bacon, 2009.

Deegan P. E. Recovery: the lived experience of rehabilitation. Psychosocial Rehabilitation Journal, 11, 11-19, 1988.

山崎 喜比古, 坂野 純子, 戸ヶ里 泰典(編), 本江朝美(共著), ストレス対処能力SOC, 有信堂, 2008.

Eriksson, M., Lindström, M. Validity of Antonovsky's sense of coherence scale: a systematic review, J Epidemiol Community Health, 59:460-466, 2005.

Eriksson, M., Lindström, M. Antonovsky's sense of coherence scale and the relation with health: a systematic review, J Epidemiol Community Health, 60:376-381, 2006.

高坂悠二, 山崎 喜比古, 中高年期におけるストレス対処能力(SOC)と健康関連生活習慣との関連, 日本社会医学, 27(2), 1-10, 010, 2010.

Kirschbaum C et al. The 'Trier Social Stress Test'- A tool for investigating Psychobiological Stress Responses in a Laboratory Setting. Neuropsychobiology, 28: 76-81, 1993.

Miyake A, and Friedman NP. The Nature and Organization of Individual Differences in Executive Functions: Four General Conclusions. Current Directions in Psychological Science, 21(1): 8-14, 2012.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計0件)

[学会発表](計5件)

— Sakano J, Yajima Y, Yamazaki Y, Seki A, Miyake Y. Development of a shortened version of the Antonovsky's Sense of Coherence (SOC) scale: Findings from a sample of Japanese older adults. The International Society for Quality of Life Research (23rd Annual conference proceedings, Denmark), 1066, 2016.

— Sakano J, Sawada Y, Yajima Y, Hirai Y and Sasahara S. Physiological Psychological Study on Relaxation Effects of Snoezelen Space. Proceedings of the Seventh International conference on Information(Information'2015), 51-254, 2015.

— Sakano J, Yajima Y, Yamazaki Y, Seki A, Ono K, Hayashi N. Development and psychometric testing of the Japanese Version of the 13-item Sense of Coherence Scale-Revised (SOC13-RJ) among Japanese Community-Dwelling Elderly. The International Society for Quality of Life Research (22nd Annual conference proceedings, Vancouver), 2015.

— Sakano J, Langeland E, Solesnes R, Yajima Y, Sasahara S, Yamazaki Y. Construct Validation of the Mental Health Continuum-Short Form for Youth (MHC-Y) in Japanese and Norwegian High School Students. The International Society for Quality of Life Research (21st Annual conference proceedings, Berlin), 2014. [Top Poster Abstract Award].

— Sakano J, Yamazaki Y, Ninomiya K, Ota K, Yajima Y. Perceived positive change of mental patients participating in the salutogenic salon. Proceedings of the Seventh International conference on Information(Information'2014), 17(1), 305-312.

[図書](計0件)

[産業財産権]なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

坂野 純子(SAKANO, Junko)

岡山県立大学・保健福祉学部・教授

研究者番号: 70321677

(2)研究分担者

山崎 喜比古(YAMAZAKI, Yoshihiko)

日本福祉大学・社会福祉学部・教授

研究者番号: 10174666

(3)研究分担者

澤田 陽一(SAWADA, Yoichi)

岡山県立大学・保健福祉学部・助教

研究者番号：50584265